

# 埼玉電工組 各支部の社会貢献活動

埼玉県電気工事工業組合の各支部は地域住民のさまざまなイベントに参加し、社会的な貢献を果たした。

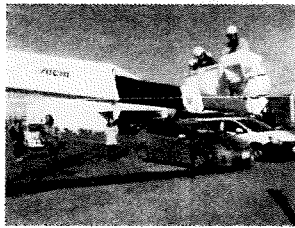
地域住民との交流イベント

## 行田支部

行田支部（羽島隆行支



電気自動車に初めて試乗し、喜び子供たち



子供たちもヘルメットを付けて、高所作業車へ

部長）の行田地区組合員6人ほどのほか、組合員の伊藤トシト、増玉か、乗と太陽光発電関連設備の見学等を通して、地域から機械や敷地（駐車場等）の提供を受け、地域住民との交流イベントを実施した。

このイベントは、電気自動車、高所作業車の試乗時には、さすがに心配その見守っていた。お母さんたちも、電気住民の電気や安全や安心、有効活用等について理解を深めるとともに、交流を図ることを目的に企画した。

当日は、風が吹き寒い一日であったが、約20人の親子連れが参加した。電気自動車に初めて乗る子供たちは大はしゃぎで、

「充電はどうするの？」  
「充電は家でするの？」  
「関心も高まり、今回の交流イベントは成功裏に終わった。」

## 越谷支部

越谷支部（村川周二支部長）はこのほど、約35人の参加で「労働災害防止安全大会」を越谷市立総合体育館の第一・第二会議室で開催した。

## 安全大会開く 川越支部

川越支部（戸口昌志支部長）はこのほど、川越南文化会館ジョイフルで安全大会を開催した。

当日は、支部組合員59人、事務局1人、合計60人が参加し、戸口支部長によるあいさつに続き、川越市の板東博之副市長、東京電力パワーグリッド（株）川越支社の佐藤文昭副支社長、飯島篤子氏（飯島電気工事）が受賞した。

安全講話では、伊藤タリーナ総研災害リスクマネジメント部安全文化グループ労働安全コンサルタントの平松昭則氏が「災害ゼロを目指す安全活動」として、災害発生



安全講話の様子



安全講話の様子

の仕組み、身近に起きるケアレスミス、要素、防止など、安全の重要性について講演した。

最後に、戸口支部長が、「私たちは『自分の身は自分で守る』、『仲間間の身も自分で守る』ということを改めて決意したうえで、『多くの犠牲を決して容れない』として『痛ましい災害を起さない』と宣言した。

引率の母親も笑みを浮かべていたが、高所作業車のバックシートに乗って、子別、置別の資料を用い、死亡災害発生状況・労働災害の現状・高所作業でのフルハーネス型安全帯使用等、労働災害の要因と対策について説明し、「誰もが安心して働く社会を実現するために」災害ゼロを達成しようと呼べた。

最後に、日野賢介技術委員長から「経営者、現場作業員が丸一丸となって労働災害、電気事故絶滅に邁進することを誓います。」と力強く安全の誓いを宣言し、参加者全員で「労働災害絶滅」を誓い合い、安全大会を終了した。